TDA NEWS 2

日韓都市デザイン交流会2023 開催報告

毎年10月に開催していた本交流会は、今年は6月1日、2日に、韓国の仁川（インチョン）市、議政府（ウィジョンブ）市を視察地として開催された。今回は、それぞれ現地を視察した後、両日ともシンポジウムを開催し、韓国、日本の双方の専門家による事例発表、両市の都市デザインの課題に対してディスカッションを行うというハードスケジュールであったが、日韓の専門家との交流が深まり、とても有意義な2日間であった。（日本語訳：オム・ジョン）

日韓都市デザイン交流フォーラムに参加して

建築／都市デザイン　高谷 時彦

■都市デザインで先を行く韓国

交流会では、自治体の都市デザイン部局の方々や、公的な「地域建築家」として活動している方々から、専門職としての都市デザインに対するこだわりと自信、誇りを感じ取りました。

実現された公共空間も素晴らしいと思いました。何でこんなに無駄に（すいません！）車道が広いのだろうと思っていた光化門前も今回訪れると歩道が広場状に拡幅され、市民の楽しい活動の場になっていました。また日本では活躍の場がなかったザハの東大門デザインセンター（写真1）も都市デザインの成果としてみれば素晴らしいものだと思います。自由に伸びあがり躍動する建築と、じっと動かない地下遺跡を対比的、相補的に扱うことで、時と空間が交錯する新しいタウンスケープ、人々がこれまで体験することのなかった都市的空間の物語をつくることに成功しています。ソウル都市圏の都市デザインは日本よりもかなり先にあるようです。

■違いを知ることの楽しみ

進んだ都市デザインを学ぶことに加え都市デザイン交流には別の意義もあります。それは都市空間の質やその背景にある文化の違いを知り、味わうということです。

恥ずかしい話ですが、韓国の大都市では多くの人が高層あるいは超高層住宅に住んでいることを初めて知りました。仁川のソンド地区を遠望したとき「丸の内マンハッタン計画」を思い出しました。日本では『実現しなかった未来』ですが、韓国では、今そこにある現在です。私も含めジェイコブス的な感覚を持つ日本の専門家から見ると、高層居住の様々な課題が思い浮かびます。しかし、単なる投機の結果ではなく、公共交通と徒歩で暮らすコンパクトなまちづくり政策と一体のものとして高層住宅が選択されたのだと思います。また都市づくりを具体的に市民と考えていこうという姿勢は、フォーラム会場（都市センター）においてあった都市模型を見ると伝わってきます（写真2）。日本といえば、都市政策（のお題目）と、実際の住宅地開発が連動せず、駅から離れて造成された広大な戸建て住宅地が太陽光パネルで覆われているというのが大都市圏の現実です。どちらがいいかということではありませんが、都市政策の一環として超高層を選択した韓国の今後に注目をしたいと思います。

同じ仁川の開港場地区では歴史街区の再生活用が徹底されていました。日本人から見ると少し不思議な「日本人町」でしたが、「韓国の大工さんがつくるとこうなります」という説明には頷いてしまいました。

私には、背景に壁／軸（柱、梁）の建築文化の違いがあるように思えます。建築が並び集合的に一つの壁をつくるのが大陸の文化。日本の場合はもう少し一つ一つの家が独立し、集合の仕方にも独特（適当な？）の間合いがあります。韓国の建築家や大工さんが日本租界のまちを「再現」する中でその文化的な差異が浮かび上がっていることには興味を惹かれました。

■今後の交流に向けて－地方都市

「都市デザインの違い、文化の違い」に巡り合うためには分かり易く地域性が残っている地方都市との交流も面白いのではないでしょうか。

私は自分が長く都市デザイン活動でかかわっていた山形県鶴岡市や酒田市のような小さなまちで、市民の方々と交流してもらえないものかと期待します。例えば羽黒に今なお生きている修験道の山伏集落を体験してもらいたいものです。集落（人工）と山（自然）、あるいは生と死後の世界を時空を超えて自在に行き来する山伏たちと、時間と空間の織りなす作品である都市デザインについて話をするのも面白いのではないでしょうか。酒蔵のまち、大山で地域に誇りをもって生きる人たちと、酒を酌み交わしながらのまちづくり議論も楽しみです。地域の専門家や行政職員、市長さんなどにも加わってもらい、都市デザインを巡って忌憚ない意見交換ができることを願っています。

写真1　東大門デザインセンター

■勝手に希望すること、あれこれ

議政府駅の東西をどうつなげていくのかなどの具体的なプロジェクトを巡る議論を深めることにも興味を惹かれました。日韓の文化の違いを知る上でも面白い体験の場となるに違いありません。

また、都市デザイン交流を東アジアにおける文化交流としてとらえると、中国の人が参加してくれるとさらに面白くなるとは誰しも思うところでしょう。しかし、準備など大変大きなハードルがあるのだと思います。

私の勝手な希望はここで終わりにしたいと思います。日韓の間だけでも国際的な会を継続するためには大変なご苦労があると思います。刺激に満ちた楽しい場を用意してくださった日韓両国の方々に心よりお礼申し上げます。

写真2　都市模型